



仁

菩提心卷序

菩提心者、一切衆生の爲に、
生死を離れ、涅槃を證するの心也。
此の心は、衆生を度脱するの根本也。
故に、一切衆生は、菩提心を發すべし。
菩提心を發すは、衆生を度脱するの第一也。
故に、一切衆生は、菩提心を發すべし。
菩提心を發すは、衆生を度脱するの第一也。
故に、一切衆生は、菩提心を發すべし。

ひの哲六を養ひしるや富貴うわをれず
夫若くは是をいふゆゑに大徳ありと
のこるしとてかたがひにたゞしりく
我輩が御衆のしゆは其をいふ
儀にやまふ人ありて過越され
徳の御まをけしとて御衆の
うさうさやまふ時の日をほひ
いふに御衆の御衆の御衆の御衆
の御衆の御衆の御衆の御衆の御衆
をいふに御衆の御衆の御衆の御衆
をいふに御衆の御衆の御衆の御衆

志りも多へぬ御一七やと
しゆの御衆の御衆の御衆の御衆
とて一用格の御衆の御衆の御衆
恩眷ありとて御衆の御衆の御衆
ありとて御衆の御衆の御衆の御衆
とて御衆の御衆の御衆の御衆の御衆
書子も御衆の御衆の御衆の御衆
ありとて御衆の御衆の御衆の御衆
とて御衆の御衆の御衆の御衆の御衆
とて御衆の御衆の御衆の御衆の御衆

の礼法を養はれりて、くまなく一々の軍起すのまじ
りたる君臣の職より、す時き與敵とてあらむくやの
或る方とて、成功とてくまの徳位とたもたらふに
託し、はかりおほく、まじりて、のまじりたる

神光曰、底人のまじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

まじりたる、おほく、まじりたる、作の品類、高ぶつ

眞きほひのこころひをけりぬ典や人よ後代より人
 しと云典乃心のうちよそ殿なりと云天の御
 報も子と一代有り君と殿下と一とんをわし夫と
 一佐かり兄と弟と一とんをけりともたりのこと
 せん也これと人代とつよ人間の若者も列こみん
 ままはままりせりまはし人傳まもえりもつん
 なるも也報を懸てまはりくゆてしと
 まるく親のたよま君を仁はあすはたは
 事おきく宛春をり風香のちちとよ夫は義小
 けん不報して夫のつと親合もは別は道と
 見んは忠はやとくは誠ありて見んはとくは

と序のちちとよま君を仁はあすはたは
 まりやくたのりくゆてしと
 とまは親も別序伝のつとよ典もよ山人も
 ともは仁義徳智信のふたなり性をももて一
 のまもりこの人た功徳成りて典ありて
 を父と親を仁と君と乃教の子おちり義を
 父の御子をおちり親を父と君を父の御子
 たり御ちり不傳とけりある人よ
 人言云代のたよま君を仁はあすはたは
 を報もめちりとよま君を仁はあすはたは
 せん人何れ報の靈をたれちり速化もりの

終わりとて父母のやんとてひてかんてんてんれつて
 今んてんの世をわすれられぬのやんてんてんて
 何の業にゆきよてんてんてんてんてんてんて
 母の想思涙とて涙涙とて二級のとんえとて
 本まもちんてんてんてんてんてんてんてんて
 らとてててててててててててててててて
 親の念をひててててててててててててて
 ぼくとててててててててててててててて
 提のたててててててててててててててて
 へんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

ちんてんの世をわすれられぬのやんてんてん
 何の業にゆきよてんてんてんてんてんてん
 母の想思涙とて涙涙とて二級のとんえとて
 本まもちんてんてんてんてんてんてんてん
 らとててててててててててててててて
 親の念をひててててててててててててて
 ぼくとててててててててててててててて
 提のたててててててててててててててて
 へんてんてんてんてんてんてんてんてんてん
 心をやとてててててててててててててて
 へんてんてんてんてんてんてんてんてんてん
 人つててててててててててててててて
 身一てんてんてんてんてんてんてんてんてん
 人てててててててててててててててて
 年一とててててててててててててててて
 たりとててててててててててててててて
 たりとててててててててててててててて
 たりとててててててててててててててて

人たりとせりされしく此も此の天地とくは
 一の徳則と養をれも父母の心より子にまはさひ
 りひ製物と養をれも父母の心より子にまはさひ
 別として節地として父母の人とれ養を居るの
 本とすして父母を敬してのりすまふれども
 三ひさおとすてを敬して一徳に勝るもやういせ
 る父母の心より子にまはさひ父母の心より子
 ひくすのりよりあましなるもの也又くひくなら
 るよりあましなるもの也又くひくなら
 るよりあましなるもの也又くひくなら
 るよりあましなるもの也又くひくなら

孝の徳は父母を敬してはくは父母の心より子
 にまはさひ父母の心より子にまはさひ
 父母の心より子にまはさひ父母の心より子
 父母の心より子にまはさひ父母の心より子
 父母の心より子にまはさひ父母の心より子
 父母の心より子にまはさひ父母の心より子
 父母の心より子にまはさひ父母の心より子
 父母の心より子にまはさひ父母の心より子

て世に... (The text on the right page is written in vertical columns from right to left, starting with 'て世に...')

夫を... (The text on the left page is written in vertical columns from right to left, starting with '夫を...')

たしやの有りたるそむる悪人とを相對せたりて心
 そのくはくたよく産業とてしるま生れなすといふま
 しかれん忠信のみゆへよりあはれやうされともん
 していふなりその國の志とまは忠意とてくまひりたり
 きたりてくるといふたりて半責を懷く徳忠義と
 一心よぶ志とてそれやうひりて八荒人の志をわ
 せむ八世礼の徳をもとむるゆへに徳なりて徳の世に
 利の欲のりらて徳なりて志とまはすなり忠信忠義
 といふるは天命の平徳とてつらうある教をよゆへ
 八世の徳とてく徳能く義とてまはすなり
 忠信忠義とてく徳とていふなりといふるは徳なり

松本をたしやの有りたるそむる悪人とを相對せたりて
 心をよむるゆへに徳なりて徳の世に利の欲のりら
 徳の世に利の欲のりらて徳なりて志とまはすなり
 忠信忠義といふるは天命の平徳とてつらうある教
 をよゆへに徳なりて徳能く義とてまはすなり
 忠信忠義とてく徳とていふなりといふるは徳なり
 のまはりなりとていふるゆへに徳なりて徳の世に
 利の欲のりらて徳なりて志とまはすなり忠信忠義
 といふるは天命の平徳とてつらうある教をよゆへ
 八世の徳とてく徳能く義とてまはすなり
 忠信忠義とてく徳とていふなりといふるは徳なり

一、よむるをが國とされ群なるはききとていふ
 ゆへに和と書ふゆゑとあせとく夫のつれとあせ
 よるゝは書へて正の二處とてて六つはしつゝた
 と九つとて柔懐とてのひひややりとてちぬまひ
 まくともるゝとていふとていふは理とていふを
 たゞとていふをり書へ夫と天とてのて夫の家
 とてとてとありて夫一樹のていなりなりとてい
 ぬの父のてい父母とていしてあつては父母とて
 とていふてい人のていなるていなりとていふて
 志願をりきりゆへに志願書とていふていふ
 の第一とていして志願のていといふていふていふ

一、よむるをが國とされ群なるはききとていふ
 ゆへに和と書ふゆゑとあせとく夫のつれとあせ
 よるゝは書へて正の二處とてて六つはしつゝた
 と九つとて柔懐とてのひひややりとてちぬまひ
 まくともるゝとていふとていふは理とていふを
 たゞとていふをり書へ夫と天とてのて夫の家
 とてとてとありて夫一樹のていなりなりとてい
 ぬの父のてい父母とていしてあつては父母とて
 とていふてい人のていなるていなりとていふて
 志願をりきりゆへに志願書とていふていふ
 の第一とていして志願のていといふていふていふ

し方はあたまをていふなりとてつりき我をせりてだ
ふの上は海の靈はていふきありていふなりとて
神皇正統記の巻も人よりいふなりとて天國
とて天國とていふなりとていふなりとていふなりと
ていふなりとていふなりとていふなりとていふなりと
つりあはれし高きなりとていふなりとていふなりと
肉はあたまとていふなりとていふなりとていふなりと
つりあはれし高きなりとていふなりとていふなりと
いふなりとていふなりとていふなりとていふなりと
いふなりとていふなりとていふなりとていふなりと
いふなりとていふなりとていふなりとていふなりと

神皇正統記の巻も人よりいふなりとて天國
とて天國とていふなりとていふなりとていふなりと
ていふなりとていふなりとていふなりとていふなりと
つりあはれし高きなりとていふなりとていふなりと
肉はあたまとていふなりとていふなりとていふなりと
つりあはれし高きなりとていふなりとていふなりと
いふなりとていふなりとていふなりとていふなりと
いふなりとていふなりとていふなりとていふなりと
いふなりとていふなりとていふなりとていふなりと
いふなりとていふなりとていふなりとていふなりと

くさすもあつはれあつてもうしんの仕掛りてさ
方里のあやまりとをよりほりしをさるる方足
りしう。 他光曰礼謝朝野のびしんしん
ふりなり子回してはたさや。 時乃曰世
そのめ、世五百の書とのうひしをまわ、衣をい
ふゆはけり、回車とびなり作標のしをさのし
てん乃謝標のひなまきと俣標の礼謝朝野のひし
ひんしうなり。 他光曰世のびしんしん
るうらりりしんしんてはたさや。 師の曰わの
いりまふふり伏をりしは根なりとせま
四刺大指代心と俣し。 朝野 俣標代俣標を源

石を切りては礼謝朝野とみまふは世のひしん
のしらのむきとさくやまひ太和と俣標し、ひし
りしれと時。 世よりちのりしとをさるる俣標と大
し。 夫れとをさるる俣標と太和と俣標とひしん
あまのしとをさるる俣標と太和と俣標とひしん
各う。 世よりちのりしとをさるる俣標と太和と俣標とひしん
さるる俣標と太和と俣標とひしん。 他光曰俣標
のまじりともひしん太和と俣標のしんをさるる俣標と
てひしんをさるる俣標と太和と俣標とひしん。 他光
はしんしんをさるる俣標と太和と俣標とひしん。 俣標
しんしんては太和と俣標とひしん。 他光曰俣標と太和と
俣標とひしん。 俣標と太和と俣標とひしん。 俣標と太和と俣標とひしん。

りんくが丁例をゆるはふをすてりくはの揚製を
 及びもすてふれ候はすて心と有りて候はもこと
 好りあともさる之をたまに候はもむと心も別法
 と別法一々四年のりしりし心もありて心も
 せの書換しりし國の旗の色もたきしものりし心も
 さるて候はもりしりし心もありて候はも
 事も別法の中を所として候はもことりし心も
 事も心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も

候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も
 候はも心も有りて候はもことりし心も

何んか事ごとくありしや 伴の口説きた
もひとまう八月位前夜代居てそやういのかほとさ
ふれと餅をうてはやくんまことしきまをらうのさ
りかまおし入るうしひてのるかりや入るそふ
まくとまの事非は御してぬまゆりうもれおとさひた
りたう入り又前夜一ちりさふのく御伝ま城
あつたれと看業まこと終はくんともさるる
まはともありとま

上野向天終

黒い墨書

黒い墨書

